

知らなきや損する

今回の数字

0.068%

預金を守る保険料率 定期預金金利より高いので安心!?

NISA(ニーサ)が、いよいよスタートしました。ニーサ(少額投資非課税制度)とは、今年新たに投資した100万円までの株式や投資信託などの配当や分配金、譲渡益が5年間は非課税になるというものです。

預金の利息に対する税率は20%、投資は10%から預金と同じ20%になったので、投資をする人にとっては、税が優遇される制度がスタートしたわけです(実際の税率は、復興税が加算され20.315%です)。

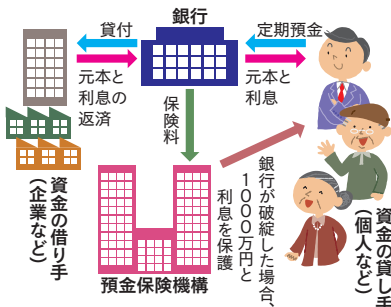
「投資は元本が割れることもあるが、預金は投資と違って減ることがない」ので安心だし、「銀行が破綻しても安全」と思っている人は多いと思います。

しかし、安心な日本の預金金利は1年定期が0.025%、5年定期が0.03%程度。残念なことに日本の金利は世界で1番といってよいほど低いのです。預金では、増えないのが現実です。

なぜ銀行は、預けた預金に利息がつけられるのかを考えたことがありますか。それは銀行がその預金を主にお金を借りたい企業や個人に貸すという仕事をして収益を得ているからです。銀行から借りたときの金利の方が、預金金利より高いのは当然ということです。

預金は投資と違い元本が割れることはありません。それはなぜでしょう。例えば株は、株式市場で評価され変動するので、例えば100万円で購入した株が増えて120万円になることもあれば、元本割れの90万円になることもあるわけです。一方、預金は銀行に預けると評価されることはありません。つまり、銀行が貸した企業が破たんし返済されなくても預金は評価しないので、元本が割れることはないわけです。

預金は銀行が破綻してもなぜ安全なのでしょう



か。もしかして、預金は政府が守ってくれると思っている人はいませんか。預金には、銀行の破たんにも備え、保険をかけているのです。つまり、銀行に預金すると、すべての銀行が預金保険機構に保険料を納め、どこかの銀行が破綻したら預金者1人につき1000万円とその利息を保険金で支払ってくれるのです。今回の数字0.068%は、定期預金の保険料率です。保険料を銀行が支払うということは、言い換えれば預金者自らが保険料を支払い、保険をかけていることになりませんか。よく見ると保険料率の0.068%という数字は、定期預金の金利より高いですね。

安心な預金ですが、物価が下がっていくデフレの時代は預金金利が低くても預金の価値は金利以上に増えることになるのですが、今後物価が上昇するインフレになると、物価が上昇する分、預金の価値は目減りすることになります。預金が安心とはいえない時代が来るかもしれません。

暮らしのマネープラン相談センター・所長
サテファイドファイナンシャルプランナー



高橋 昌子

あなたの暮らしと財産を守るパートナー

■時間相談 …… 1時間まで3000円 2時間まで5000円

教育資金・老後資金・相続・住宅ローン・保険の見直しや商品選択、確定拠出年金など何でも相談できます

■マイホーム資金・住宅ローン相談 ……………… 3万円

無理のない予算額、頭金や購入時期、最適な住宅ローン・生命保険・火災保険など、マイホーム購入にまつわるマネープランについて何でも、マイホーム購入まで時間を気にせず相談できます

■退職資金・マネープラン相談 ……………… 3万円

退職後の手続き、年金や保険、退職資金計画など退職後の生活設計について何でも、時間を気にせず相談できます



暮らしのマネープラン相談センター 金沢市此花町3-2 [ライブ1ビル1F] ☎076-232-2038 要予約

(株)FPサポート研究所 <http://www.fpsl.co.jp/> ●平日/10:00~19:00 ●土日/10:00~17:00